

活動主題 「世界でたった一つのTシャツを染める」**活動の価値**

世界各地で、その土地の気候、風土の中で衣食住が発達しておりその中には染色や文様の文化が存在する。国旗、幟旗、大漁旗、着物、民族衣装、ハンカチ、暖簾、手ぬぐいなど、諸外国や日本各地においてそれぞれ独自の色彩や染色技法が受け継がれている。伝統工芸品としての染色作品には、日本及びアジア諸国との文化交流がうかがえる作品も存在する。色彩や文様は、地域の伝統や様式により、あるいは作者によってその独自性は様々であるが、どの染色作品においても美しさを追究し続けようとする先人の知恵が込められている。少子高齢化や価値観の多様化により、伝統工芸品がこれまで培ってきた独自の美が途絶えようとしている。このような時代の中で、伝統を現代に伝承することに価値を見だし、伝統と現代性をいかに調和させるかを追究し、自分の人生や社会を豊かに彩ろうとする美の創造的な探究心は、けして色褪せることはない。

本活動では、絞り染めの染色技法と配色の工夫がもたらす多様性を用いて、用いる場面や社会との関わりから主題を生み出し、Tシャツを染める活動を行い染色技法の習得を図る。そしてその技術を活用して、身近な生活の中にある素材を自ら選択し、彩りをもたらし創造活動を行う。この創造活動を通して子どもは、構成、装飾の目的や条件をもとに、使用する場面や社会との関わりから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさを総合的に考え、表現の構想を練ることができるようになる。さらに素材や染色材料の特性を生かし、意図に応じて配色や染色技法を追究し実際の染色作品を生活や社会に活用することで創造活動の喜びを実感することができるため、大変意義深い活動である。

子どもの実態

本学級の子ども（〇名）は、パッケージデザインを通して、色彩や形を構成し、表装する活動を経験している。事前アンケートで、自分が意図する通りの色や配色をすることができますかという質問には、いいえが〇%であった。理由は、「理想の色を思い浮かべることができませんが、その色を混ぜたりして作ることが苦手だから」「活動を行った経験がほとんどない」「やり方がわかるのかわからないから」などが挙げられた。何かを染めてみたいと思ったことはあるか、という質問では、「はい」が〇%であった。具体的に染めたいものとして、「布を、伝統文化のもののように自分の手でいちから染めてみたい。」「Tシャツをそのクラスらしく染めてクラスTシャツを作りたい」「雲をカラフルに染めたい」「服」「紙」などがあげられた。

以上のことから、何らかの事象を自分がイメージする色彩に染めてみたいという染色に対する創作意欲は高いことがわかった。一方で、これまでの創作活動において、色彩や配色の効果として、理想のイメージをもつことはできるが、自由に色をつくりだしたり、意図したイメージの配色を具現化する過程において、理想とのギャップを感じていたり、苦手意識を持っている子どもが少なくないことが分かったため、配色や主題に合った表現技法を試行錯誤することができるような援助をしていく必要がある。

活動の援助観

そこで本活動では、染色技法を生かした表現に関心をもち、用いる場面や社会との関わりから主題を生み出し、配色や染色技法の効果を考え、自分の表現方法を追究し、身近な社会に彩りを与える喜びを実感できるようにすることをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・染色技法を生かした表現に関心をもつことができるように、染色した複数のTシャツを鑑賞する場を設定する。
- ・染色技法を生かした表現に関心をもつことができるように、白い布切れを実験的に染める場を設定する。
- ・用いる場面や社会との関わりから主題を生み出すことができるように、活動を振り返る場を設定する。
- ・主題に合った配色と染色技法を追究することができるように、前時生み出した主題に合った配色と技法を試行錯誤し、防染する活動を設定する。
- ・自分の表現方法を追究し、主題に合った染色ができるように、実際のTシャツを染色する場を設定する。
- ・身近な社会に彩りを与える喜びを実感できるように、実際に用いた場面を写真に撮り、もたらした効果や働きについてプレゼンテーションする場を設定する。

○ 子どもの学習目標

染色のよさや美しさを生かした作品を制作することができる。

○ 教師の援助目標

染色技法を生かした表現に関心をもち、用いる場面や社会との関わりから主題を生み出し、配色や染色技法の効果を考え、自分の表現方法を追究し、身近な社会に彩りを与える喜びを実感できるようにする。

活動計画（4時間＋α）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	援助のねらい・内容・方法
一	1 ①	1 染めたTシャツを鑑賞し主題を生み出す。 (1) 複数の染色作品を比較鑑賞し、問いを生み出す。 ・どうやって染めたのだろうか ・どんな染色技法があるか (2) 白い布を実験的に染める。 学習課題 オリジナルの染め物をつくろう (3) 日本や世界の染色作品と染色の技法を知り、応用する。 ・折り、板締め、根巻き、しわ ・カゴ、グラデーション、棒 (4) 主題を生み出す。 ・青春、夕陽 ・○○の森、藤の花 ・家族へのプレゼント	とてもきれいなTシャツだな。どのように染めたらよいのだろう。 染め方にもいろんな工夫があるのだな。染め方を工夫して、オリジナルのTシャツをつくってみたいな。	染色技法を生かした表現に関心をもち、用いる場面や社会との関わりから主題を生み出すことができるようにする。 ・染色の技法を生かして表現することに関心をもつことができるように、身近な素材を染色したものを鑑賞する場を設定する。 ・染色技法を生かした表現に関心をもつことができるように、白い布切れを実験的に染める場を設定する。 ・用いる場面や社会との関わりから主題を生み出すことができるように、イメージマップから強く表現したい主題を決定する活動を設定する。
	2 ①	2 Tシャツの染色イメージを構想する。 (1) 主題に合った配色と技法を追究する。 ・配色の工夫 ・染料濃度調整による明度差 ・藤色と棒絞り ・青春とグラデーション (2) Tシャツに防染をする。 ・折り、板締め、根巻き ・しわしわ、カゴ ・グラデーション、棒	主題を表現するためにはどんな配色と技法が最適だろうか。 自分がイメージした主題を表現する下準備ができたぞ。	主題に合った配色と染色技法の効果を考え、自分の表現方法を追究することができるようにする。 ・主題に合った配色と染色技法を追究することができるように、前時生み出した主題に合った配色と技法を試行錯誤し、防染する活動を設定する。
三	2 ①	3 Tシャツを染色する。 ・固着 ・染色 ・定着 ・洗淨乾燥	主題に合うように染色できるだろうか。 想像以上の仕上がりになったな。	・主題に合った染色ができるよう、実際のTシャツを染色する場を設定する。
	1 + α	4 実際に用いた場面を写真に撮り、プレゼンテーションする。 ・普段着にしたら生活が少し明るくなった ・表現活動の衣装にぴったりで舞台上に調和をもたらすことができた ・家族の誕生日にプレゼントしたら喜んでくれた。	実際に着てみて活動してみたらどんな効果をもたらすことができるかな。 染色がもたらす効果ってすごいな。次は、どんなものを染色しようかな。	身近な社会に彩りを与える喜びを実感できるようにする。 ・身近な社会に彩りを与える喜びを実感できるように、実際に用いた場面を写真に撮り、もたらした効果や働きについてプレゼンテーションする場を設定する。



本時 公開授業2 美術室 第二次の2時（1／1）

本時の援助観

前時までには子どもは、染色されたTシャツを鑑賞し、染色の実験を経験し、用いる場面や社会との関わりから独自の主題を生み出している。次に、主題に合った配色と技法を試行錯誤し、染色の準備として防染する活動まで終えている。そこで本時では、実際にTシャツを染色する過程を通して、配色と染色技法の効果を確かめる活動を設定する。

主眼

主題に合った染色液を創りだしてTシャツを染色し、効果を確かめることができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	援助のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の活動内容とめあての確認を行う。</p> <p>(1) 主題に合った配色と染色技法のコツを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青春とグラデーション染め ・藤色と棒絞り <p>(2) 本時のめあての確認を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> テーマに合った染色技法で染めよう </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 本時の活動の見通しをもち、染色への関心と意欲を高めることができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・染色への関心と意欲を高めることができるように、試行錯誤した染色布を見せ、主題に合った配色と染色技法のコツを共有し、本時のめあてを確認する場を設定する。 	小集団／一斉	5
<p>2 Tシャツを染色する。</p> <p>(1) 防染をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り、しわしわ、グラデーション、棒絞りなど <p>(2) 固着液に漬ける。</p> <p>(3) 配色計画に合わせた染料液を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水と染色液の濃度調整 ・原色と原色の混色 <p>(4) 布を染色し、効果を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染色の効果 ・微調整 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 主題に合った染色液を創りだしてTシャツを染色することができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Tシャツを染色することができるように、固着液にTシャツを着ける場を設定する。 ・主題に合った染色液を創りだすことができるように、水と原液、原液と原液を混ぜ合わせる活動を設定する。 ・主題に合った染色液を創りだすことができるように、布切れを染めて染色状況を確認する場を設定する。 ・主題に合った染色液を創りだしてTシャツを染色することができるように、実際に白いTシャツを染色する場を設定する。 	小集団／個	40
<p>3 今日の活動のまとめを行う。</p> <p>(1) 染めたものを写真に撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像以上の仕上がり <p>(2) 本時の学習を振り返る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 染色の効果を確かめ、用いるための見通しを持つことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・染織の効果を確かめることができるように、写真に撮り、振り返る活動を設定する。 	学級集団－小集団	5

活動の評価

知識・技能	・布の特性や感情にもたらず効果、染色の技法と染色工程を理解し、主題に合った色と染色技法を創造的に試行錯誤することができる。
思考・判断・表現	・使う場面やイメージなどから主題を生み出し、機能と造形的な美しさを総合的に考えて構想を練ることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・実際に用いて、その効果と働きを豊かに実感し、自分や友達作品を鑑賞し、表現の意図や工夫について考え、話し合うことができる。

※ 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動	評価規準（観点：方法）	指導の個別化（手だて）
一	1 ①	1 染めたTシャツを鑑賞し主題を生み出す。 (1) 複数の染色作品を比較鑑賞し、問いを生み出す。 (2) 白い布切れを実験的に染める。 学習課題 身近な素材を染めて彩りを与えよう。 (3) 日本や世界の染色作品と染色の技法を知り、応用する。 (4) 主題を生み出す。	使う場面やイメージなどから主題を生み出し、染色技法を試行錯誤することができる。 (思：染色布、学習プリント)	複数の染めたTシャツを提示する。 幅広く作品を鑑賞する場を設定する。 主題を交流する場を設定する。
	1 ①	2 Tシャツの染色イメージを構想する。 (1) 主題に合った配色と技法を追究する。 (2) Tシャツに防染をする。	機能と造形的な美しさを総合的に考えて構想を練ることができる。 (思：染色作品)	班で協力して、染色する。 幅広い技法について、試作品を提示する。 布に試し染めをし、染色加減を確かめる。
二	2 ①	3 Tシャツを染色する。	布の特性や感情にもたらず効果、染色の技法と染色工程を理解し、主題に合った色と染色技法を創造的に試行錯誤することができる。 (知：染色作品)	幅広い混合染色液のモデルを提示する。 日常生活で見られる染色事例を提示する。
三	1 ① +	4 実際に用いた場面を写真に撮り、プレゼンテーションする。 α	実際に用いて、その効果と働きを豊かに実感し、自分や友達作品を鑑賞し、表現の意図や工夫について考え、話し合うことができる。 (態：学習プリント)	実際に用いた場面を幅広く提示し、鑑賞する場を設定する。